

事後評価シート

調査研究課題名	社会資本の維持更新に関する研究
担 当 者	長野主任研究官、南研究官
当初目標と目標達成度	<p>本研究は、平成 13 年度から継続的に行われているもので、平成 14 年度には、より精緻な社会資本の維持更新費の推計を行うために、国土交通省所管の工事事務所にヒアリングを行って過去の維持更新に係るデータの収集し、推計手法の検討を行うこととしていた。</p> <p>しかしながら、データ収集の困難性等から平成 14 年度は、社会資本を巡る最近の動向および多様化しつつある社会資本概念について整理を行い、さらに維持更新推計を実施した国の機関ならびに地方公共団体へのヒアリングを通して、今後適切な維持更新および維持更新費の推計を行っていく上での課題の分析を行った。</p> <p>このように実際の維持更新費の推計を行うには至らなかったものの、社会資本概念の多様性、精緻な推計を行う前提となる適切な維持更新を行うための留意点を整理できたことは意義が大きい。</p>
調査研究内容の妥当性	<p>社会資本の維持更新費の推計を行う上では、個々の社会資本の実情に即した手法で推計を行うことが重要であるが、推計の対象となる「社会資本」概念の多様化、また一方で補修履歴データの未整備などから正確な推計を行うことは困難となっている。このような観点から本研究では、「社会資本」の諸概念についてあらゆる角度から分析を行い、また維持更新費の推計についても、事例を分析することにより、個々の社会資本の実情に即した今後の維持更新及び維持更新費の推計のあり方を提示したことから、調査研究内容は妥当であったと考えられる。</p>
調査研究の仕組みの妥当性	<p>本研究では、文献調査により社会資本の概念について幅広く情報収集を行い、また維持更新費の推計事例については、地方自治体等の担当者および京都大学の小林教授にヒアリングを行い、今後の課題を分析することができた。よって調査研究の仕組みは妥当であったと考えられる。</p>
成果と活用（予定）	<p>研究の結果、社会資本概念の多様性、社会資本の適切な維持更新のあり方、維持更新費を推計するうえでの留意点を明らかにすることができ、一定の成果は得たものと考えられる。なお、本研究報告は、関係部局への配布、HP 上での公表を予定している。</p>
その他	
意見	

